

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104462		
法人名	社会福祉法人 芦辺会		
事業所名	グループホーム あしべ(さくら)		
所在地	和歌山県和歌山市雄松町3丁目19-6		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104462&amp;SCD=370">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104462&amp;SCD=370</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年3月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

充実した日常生活を送っていただけるように、周囲にあるスーパーなどのお店や公共施設を活用しながら入居者の方々が希望される場所にも外出している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは和歌山城に近く位置し、「地元根付いた老人の福祉施設を」の願いを受けて設立された社会福祉法人が母体のグループホームです。法人の行事にホームの方が参加され、そこへ地域の幼稚園や小学校の子ども達の参加がみられ、法人全体と地域とが共に関わりを持ち幅広い交流が育まれています。身体的に自立度の高い入居者が多く、日々の観察結果をシートに記入しながらどのような支援が必要かを検討し認知症ケアが実践されています。また、法人主催の研修の受講や、学んだ事を職員間で共有し合い、幅広い視野を持てるよう職員を育てる環境となっています。管理者は職員が相談しやすいよう雰囲気を作り、職員の処遇体制と共に安定、安心して働けるよう配慮しています。また、利用者の希望に応え外出支援をしたり、日々その方らしく過ごせる支援が行われています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の入り口及びユニットの入り口に啓示し、職員全員が共有できるように努めている	地域の認知症介護への貢献をとの思いで「地域交流の大切さ、笑顔とゆとりある生活」の理念を作られました。各階に掲示し職員は意識して日々のケアを実践しています。言葉だけにならないよう、地区内の清掃を利用者で行ったり、子ども会や幼稚園との交流会等、理念の実践にホーム全体で努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々への挨拶の他、入居者と共に近隣の清掃を行ったり地元の自治会や子ども会で開催される行事へできる限り参加している	地域の祭りや、文化祭に展示スペースをもらい作品を展示したり、地域と毎年着実につきあいを深めている。季節ごとの法人のイベントには地区の幼稚園・保育所・小・中学校の子ども達の参加を得て開催している。管理者が地区の青年会長をしており地域と深い関係を築き、法人全体への付き合いへと発展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会で開催される行事の際に事業所の説明を含め、何かあれば相談にきてもらえるよう伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況などの説明を行い、サービスの向上に努めている	地区の主要委員の方々の方々の出席の下、運営推進会議を開催している。家族参加は困難な状況であるが、利用者の参加を得ている。ホームの現状報告や取り組みが報告され、意見交換を行い運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連携は図れているが積極的な働きかけはできていない	市担当者とは日々の暮らしの中で、成年後見制度、権利擁護、生活保護等について相談している。また実地指導の際に運営推進会議の議事録等を見てもらい助言を得るなど、機会あるごとに相談できる関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に身体拘束に対する研修を行っており、常に指導・助言を受けながら日常の業務に努めている	身体拘束については、毎年必須の研修と位置づけており、必ず職員全員が受講している。身体への拘束のみならず、「言葉の抑制」についても考慮し、必ず目的を伝えてからケアするよう、次に移る全ての行動を説明する等、心身全体への拘束意識を徹底し実践を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に高齢者虐待についての研修や会議を行い、知識や理解を深め日頃から注意喚起しながら防止に努めている		

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員については理解しているが、職員全体に関しては不十分である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に不安感を与えないように十分に説明を行い、理解・納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は常に意見が聞けるように心がけており、また、入所時に重要事項説明書に明記している外部の機関があることを伝えている	家族の意見を聞く機会として、行事開催時に家族懇談会を開き、家族が一番望む事、利用者のやりたい事とやれる事等を一覧表にし、個々の利用者の役割に繋がるように取り組んでいる。利用者アンケートや満足度調査は意見を聞く機会として今後実施を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のミーティングやコミュニケーションを通して意見を聞き、反映に努めている	処遇会議やフロアミーティングを定期的に行き、職員からの提案や日々の業務の方法、個々の利用者の対応の仕方等を話し合い、ケアに反映させている。些細なことであっても声を出せるよう取り組み、日常的に言いやすい関係作りができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活習慣などを本人から確認するが、認知症の症状により機会を設け数回に分けて行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に直接施設内を見ていただき、生活している雰囲気を感じていただく。また、家族が望む要望や不安を聞き、安心していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状と家族の意向を十分に把握、理解した上で必要に応じて他のサービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者個々の状態や性格を把握し、その方に出来る事や出来るであろう事に対し、常に一緒に行くことを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての家族に対してはできていないが、通院や散髪、買い物など可能な限り協力をしていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に交流のあった近隣の方々にも積極的に面会に来ていただくよう声かけを行っているが、まだ一部の方々しか対応できていない	以前住んでいた近所の方が面会に来られたり、法人のデイサービスを利用する夫に、利用日に合わせて会いに行き、本人に笑顔が見られるなど、馴染みの関係の継続を支援している。入居前の趣味の継続支援や、墓参り、外泊、外食など幅広く支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格、関係などを把握し、円滑な人間関係が築けるよう努めている		

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り行っているが継続性に欠けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりと十分にコミュニケーションを図り、可能な限り意向に沿うように援助を行っている	センター方式を用いて家族等にこれまでの生活歴を聞いたり、日々の様子を申し送りノートに記入して、思いの把握に繋げている。業務日誌の個人記録からも抜粋し、意向を汲み取っている。思いが伝えにくい方は、普段と変わった様子があれば、時間を遡って思いの背景や糸口を探す努力を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人や入所前に利用していたサービス担当者などから情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活リズムを確立し、その中で個人の能力を最大限に発揮できるよう現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見も参考にしながら総合的に作成している	アセスメントを基に本人、家族の意向を聞き、受診時の医師の意見等を参考に、職員間でアイデアを出し合い個別のケアプランを作成しています。日々の観察の中で時間毎に利用者の出来る事に着目して記録に残し、見直しの際にプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の言動に変化があった場合には必ず記入し、職員間で共有している。また、介護計画の見直しに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	苦情相談窓口の設置や併設している芦辺クリニックの利用をしている		

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の予定を把握して、参加させてもらったり、初詣への参拝やスーパー等への買い物に行ったりして楽しさを模索している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の体調に変化がある場合には、同法人内にあるクリニックを受診していただき、必要に応じて本人・家族の希望を最優先し、他科受診していただいている	入居時にかかりつけ医の継続を支援し、希望があればホームから紹介している。法人提携の訪問看護や、緊急時には法人の医師と、24時間対応可能な看護師による安心の体制がとられている。歯科医、眼科医、救急病院とも地域で実績のある病院と提携し、安心の体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師や訪問看護師に対し情報を提供し、万が一の場合も含めて迅速に対応できるように体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、本人又は家族の了解の元で情報提供を行い円滑な治療が受けられるよう連携している。また、入院中は定期的に面会したり家族から情報を得て状態の確認・把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在においてそのような状況はないが、全入居者の家族に対し入所時に終末期に向けた方針について書面にて説明している	契約時に重度化への対応について、ホームで出来る範囲を家族に説明し、他の施設への移行を含めて説明を行い同意を得ている。年1回看取り研修を法人内で実施し、併設の施設の看取り経験を参考にしながら研修を行い、希望があれば可能な限り意向に沿いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを所定の場所に保管している。またテキストを作成し全職員に配布している。法人内の講習会で研修をしているが、定期的には行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て避難場所は確保している。また、定期的に避難訓練を実施している	年2回消防へ申請の下、昼夜想定自主訓練を実施している。地域の訓練参加は声かけのみであるが、地区の連合会との協力関係から、近隣の小学校へ安全に避難できる取り決めができています。ホームには自販機や食料の備蓄が1・2日あり、災害対策への準備を整えている。	

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者のプライバシーを確保し、プライドを損ねることのないような対応や声かけを心がけている	必要以上に敬語は使用していないが、自分の家族のように介護させて頂くとの尊重の気持ちで接している。入浴時も同性介助で出来る限り対応している。不適切な対応があれば、同僚同士で注意仕合い、場合によっては責任者が理解が得られるまで個別に話すなど取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望を聞き取るよう努め、自分で選択できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活パターンは確立しているが、各入居者の希望に沿って1日の過ごし方を決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度は美容室や床屋に行っている。衣類に関しても季節を意識した服装を選んで着用していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、下処理、調理、片付けと個人の能力に応じて積極的に参加していただいている	献立から、買い出し、調理まで利用者と一緒に考えて行っている。旬の食材提供に配慮し、四季の食の楽しみを心がけている。流しそうめんのイベントや外食支援では、利用者の楽しみとなり普段以上に摂取量が増えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、必要に応じて援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、促しは行っているが一部の入居者のみ習慣化してきている		

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しての声かけによる促しや、訴えられた時に随時対応してリハビリパンツや尿とりパットの使用頻度を可能な限り減らしていくよう努めている	初めから紙パンツやおむつを使用するのではなく、利用者の立場に立ち、個々の排泄リズムで排泄できるように支援し、出来るだけ布パンツにパットで対応している。服薬を医師と連携して調整して排泄の失敗のないように努め利用者本位のケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者の食事状態や排泄状態を把握し、個々に合わせて対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調面を配慮したうえで、できる限り希望に沿うよう努めている	週3回、午後の入浴が基本であるが、希望があれば午前入浴も可能で柔軟に対応している。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯など、季節を感じてゆったりと入ってもらえるよう工夫をしている。職員は入浴は夕方以降に入るのが自然ではとの思いから、今後は夕方以降の入浴の支援について検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や夜間の睡眠状態を把握し、本人の希望や必要に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルでの確認と把握だけでなく、ユニット毎に一覧表を作成し、全職員が共通理解できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いろいろな催しを見物に行ったり、買い物や外食、また、行事でお花見や遠足に行くなど興味のあることを取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	順番にはあるが、その日の希望にそって出かけられるよう支援している	近隣の商業施設のみならず、デパートの物産展にも出かけるなど、外出支援を行っている。また、家族も参加する遠足を実施したり、希望を聞いて個別の外出機会を数多く支援している。	

グループホーム あしべ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の見守りの中、買い物や出かけた先でお小遣いを使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望や家族、知人から希望があればその都度援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや作成した物を展示したり、花や造花を飾り生活感を感じていただけるよう工夫している	リビングには職員、利用者による季節の鮮やかな色の飾りつけが一面に取り付けられている。また、季節毎の絵柄のランチョンマットを職員が手作りし、利用者を楽しませている。全員で集える大フロアでは、誕生会やイベントで楽しみ、屋上庭園では野菜作りも楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	4階のラウンジや中庭に椅子を設置しており、自由に過ごしてもらえるように整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスやテーブル、鏡台等を持ってきてもらい本人の使いやすいように配置している	入居前に使用していた家具やタンス、仏壇も持ち込んでいる。家族が掛けてくれた暖簾で自室とわかり、安心して過ごせる配慮がなされている。自室で手芸や繕い物をしたい方には、針の管理をしつつ、できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かせるような援助を行い、併せて安全に生活して頂けるように配慮している		